

「チーム医療で目指す予防歯科」
～信頼される予防歯科を実現するためのスタッフ教育と医院のシステムづくり～

東京都渋谷区開業 若林歯科医院
若林 健史

近年、歯周病の治療を主訴として来院する患者さんが増えています。我々にとっては大変喜ばしいことですが、歯周治療を行うためには初診から治療中さらには、治療終了後のメンテナンスにいたるまで、スタッフ全員の連携によるチームアプローチが重要になり、医院全体のレベルアップが必要となります。

受付は患者さんが初めて出会う医院の顔なので、初診時の対応一つで医院のイメージが作られます。歯科助手は治療中の患者さんに気配りをして、安心して治療が受けられるように務めなくてはなりません。歯科衛生士は歯周基本治療の中心を担い、その出来いかんによっては歯周治療の成功、不成功に直接的に関わって来るとも重要な役割の一つです。また歯科技工士は歯周治療によって得られた健康な歯周組織を、長期にわたり維持増進していけるような清掃性の良い、メンテナンスし易い補綴物を作製しなければなりません。

そして何と云っても歯科診療を成功に導くための最大のキーパーソンとなるのが歯科医師です。歯科医院の舵取り役であり動力源である歯科医師が、医院の進む方向性や将来のビジョンをきちんと描けていないと、スタッフはどうしたら良いか戸惑い、力を発揮することができません。歯周治療が医院の基盤として運営できるようになることがこれからの歯科医院にとって重要になり今後の歯科医院の大きな飛躍につながります。

今回は歯を救うための予防歯科を進める上で、どのように患者さんにアプローチしたら良いのか、また、成功に導くためのシステム作りとして、スタッフ教育やカウンセリングをどの時点でどのような方法で行うのが効果的なのかを、当医院を例にとりご紹介しながら、楽しく明るい未来のある歯科医院づくりについてお話ししたいと思います。

【略歴】

1982年	日本大学松戸歯学部卒業 若林歯科医院勤務（東京都練馬区）
1989年	若林歯科医院（東京都渋谷区）開院
2014年	渋谷区恵比寿南に移転
2016年	オーラルケアクリニック青山（東京都港区）開院

【主な学会活動、研究活動など】

日本大学客員教授
日本歯周病学会理事・専門医・指導医
日本臨床歯周病学会・認定医・指導医
米国歯周病学会会員
日本顎咬合学会会員
日本抗加齢医学会会員
アンチエイジング歯科学会常任理事
日本大学細菌学講座非常勤講師
日本大学松戸歯学部歯周治療学講座非常勤講師

【著書】

「なぜ歯科の治療は1回で終わらないのか、歯医者さんのギモン 40」若林健史／朝日新聞出版 2019. 5

「聞くに聞けない歯周病治療100」

総監修・著・若林健史 監修・著／小方頼昌 編集委員・著・鎌田征之、稲垣伸彦 2018.3

「補綴・歯周・審美におけるMTMの活かし方」

編・著／百瀬保、若林健史、中舘憲治、奥石大介、本橋昌宏／日本歯科評論 増刊 2012.10

「歯科医院のホスピタリティーチーム医療のススメー」

編・著／飯野文彦、若林健史／財団法人 口腔保健協会 2010.6